

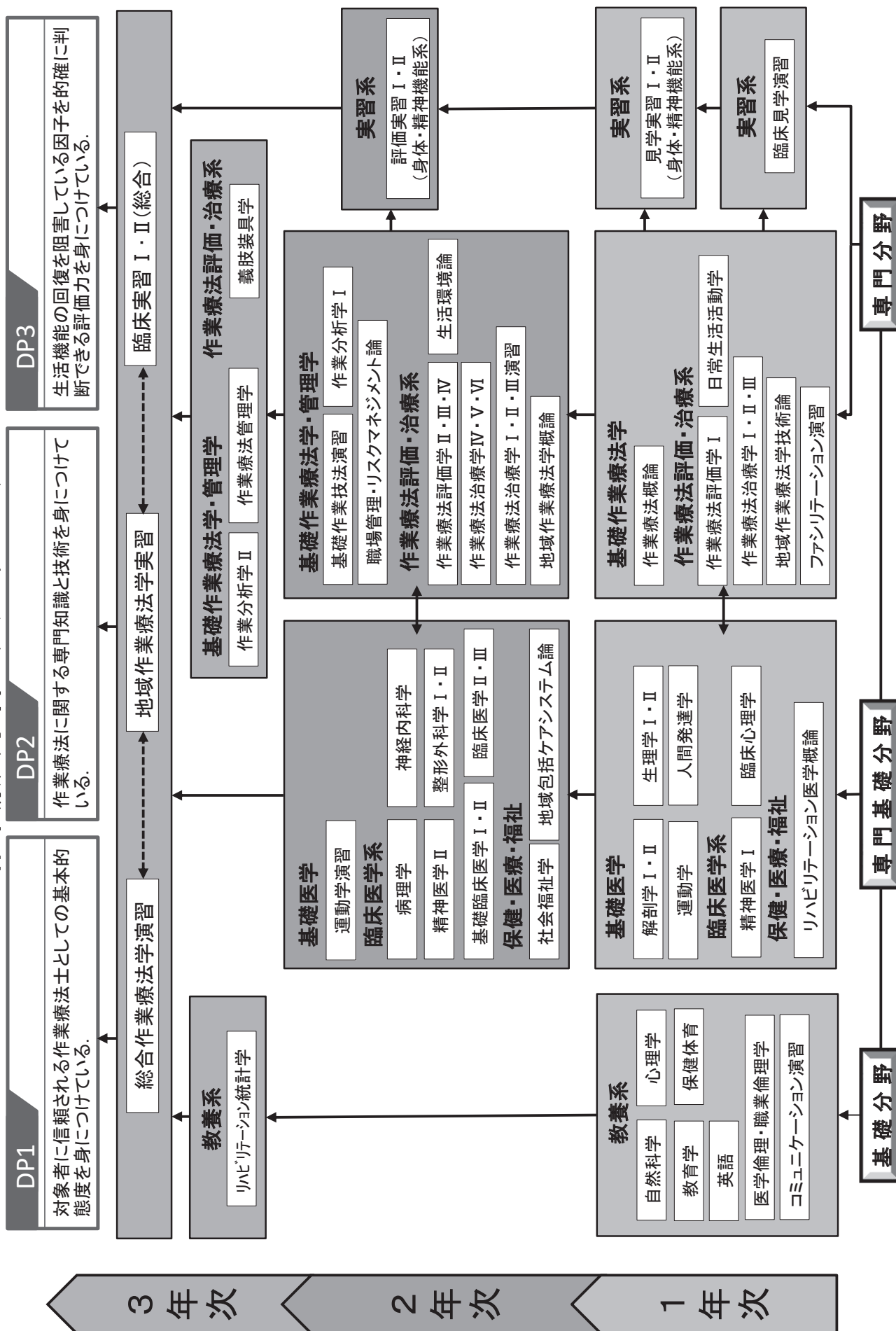
作業療法学科 カリキュラム
〈1 年次〉

分野	教育内容	科目名	1 年次		2 年次		3 年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心 理 学	2	30					2	30		14
		自 然 科 学	2	30					2	30	生物学系	
		英 語	2	30					2	30		
		保 健 体 育	1	30					1	30	講義・実技	
		教 育 学	2	30					2	30		
		リハビリテーション統計学					2	30	2	30		
		コミュニケーション演習	2	60					2	60		
		医学倫理・職業倫理学	2	30					2	30		
	基礎分野	小 計	13	240	0	0	2	30	15	270		14
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び 心身の発達	解 剖 学 I	4	60					4	60		12
		解 剖 学 II	4	60					4	60		
		生 理 学 I	4	60					4	60		
		生 理 学 II	4	60					4	60		
		運 動 学	4	60					4	60		
		運 動 学 演 習			1	30			1	30		
		人 間 発 達 学	2	30					2	30		
	疾病と障害の 成り立ち 及び 回復過程の促進	病 理 学			2	30			2	30		14
		神 経 内 科 学			2	30			2	30		
		精 神 医 学 I	2	30					2	30		
		精 神 医 学 II			2	30			2	30		
		臨 床 心 理 学	2	30					2	30		
		整 形 外 科 学 I			2	30			2	30		
		整 形 外 科 学 II			2	30			2	30		
		基礎臨床医学 I			2	30			2	30	栄養・救急救命・予防	
		基礎臨床医学 II			2	30			2	30	薬学・画像	
		臨 床 医 学 II			2	30			2	30	内科学・小児科学	
		臨 床 医 学 III			2	30			2	30	一般臨床医学	
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション医学概論	2	30					2	30		4
		社 会 福 祉 学			1	15			1	15		
		地域包括ケアシステム論			2	30			2	30	自立支援・就労支援及び多職種連携含む	
	専門基礎分野	小 計	28	420	22	345	0	0	50	765		30

分野	教育内容	科目名	1年次		2年次		3年次		単位数	時間数	備考	厚生労働省基準
			単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数				
専門分野	基礎作業療法学	作業療法概論	1	30					1	30		5
		作業分析学Ⅰ			1	30			1	30		
		作業分析学Ⅱ					2	30	2	30		
		基礎作業技法演習			2	60			2	60		
		臨床見学演習	1	30					1	30		
	作業療法管理学	職場管理・リスクマネジメント論			1	30			1	30		2
		作業療法管理学					2	30	2	30	作業療法教育及び職業倫理含む	
	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	1	30					1	30		5
		作業療法評価学Ⅱ			1	30			1	30		
		作業療法評価学Ⅲ			2	60			2	60		
		作業療法評価学Ⅳ			1	30			1	30		
	作業療法治療学	作業療法治療学Ⅰ	1	30					1	30		19
		作業療法治療学Ⅰ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅱ	1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅱ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅲ	1	30					1	30		
		作業療法治療学Ⅲ演習			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅳ			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅴ			2	60			2	60		
		作業療法治療学Ⅵ			1	30			1	30	喀痰等の吸引含む	
		日常生活活動学	1	30					1	30		
		義肢装具学					2	30	2	30		
		ファシリテーション演習	1	30					1	30		
		総合作業療法学演習					6	90	6	90		
	地域作業療法学	地域作業療法学概論			1	30			1	30		4
		生活環境論			2	60			2	60		
		地域作業療法学技術論	1	30					1	30		
	臨床実習	見学実習Ⅰ（身体機能系）	1	40					1	40		22
		見学実習Ⅱ（精神機能系）	1	40					1	40		
		評価実習Ⅰ			3	120			3	120		
		評価実習Ⅱ			3	120			3	120		
		臨床実習Ⅰ（総合）					8	360	8	360		
		臨床実習Ⅱ（総合）					8	360	8	360		
		地域作業療法学実習					1	40	1	40		
	専門分野	小計	11	350	28	900	29	940	68	2190		57
		総計	52	1010	50	1245	31	970	133	3225		101

作業療法学科カリキュラムツリー

2026.1.6



学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	心 理 学
代 表 講 師	林 田 秀 樹（所属：くまもと悠心病院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	現代心理学の概要について基礎から学び、日常を心理学的な視点から考察する。また、対人援助職として基本となる、人間理解を深める。				
到 達 目 標	心理学的知識を身に付け、今後の学習や仕事、社会生活に役立てられるようになる。				
成績評価の方法と基準	講義ごとのレポート（配点 30％）と筆記試験（同 70％）にて合計 60％以上の成績を修めること				
テキスト・教材等	テキスト『心理学入門こころを科学する 10 のアプローチ』、プリント、パワーポイント				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	心理学史／オリエンテーション、心理学とは何か、心理学の歴史と役割				
第 2 回	学習心理学／本能行動、古典的条件づけ、道具的条件づけ、社会的学習				
第 3 回	生理心理学 (1) ／脳の構造とはたらき、各神経系の構造と機能				
第 4 回	生理心理学 (2) ／中枢神経と末梢神経の活動、感情と情動				
第 5 回	知覚心理学／知覚と感覚、五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）について				
第 6 回	認知心理学／知能、認知、注意、記憶、言語について				
第 7 回	社会心理学／自己と他者や集団とのかかわり、社会的影響				
第 8 回	パーソナリティ心理学 (1) ／パーソナリティとは、パーソナリティテスト（エゴグラムの演習）				
第 9 回	パーソナリティ心理学 (2) ／パーソナリティの分類、形成と発達				
第10回	臨床心理学 (1) ／臨床心理学とは、心理査定、心理療法各論				
第11回	臨床心理学 (2) ／意識と無意識、防衛機制、欲求と欲求不満				
第12回	臨床心理学 (3) ／ストレスと疾病、こころの病について				
第13回	発達心理学／発達段階と発達課題				
第14回	神経心理学／心と脳、高次脳機能障害、その他の心理学的知見				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	自然科学
代 表 講 師	高 宮 正 之（所属：熊本大学名誉教授）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	人（ヒト Homo sapiens）は約 213 万種とされる生物の 1 種である。生物の基本的な単位である細胞の構造と機能、代謝、細胞分裂、発生、遺伝の法則や分子遺伝学を理解した上で、生命の連続性と貴重性を学びとる。生物学の基本を修得し、専門科目学修のための基礎を作る。				
到 達 目 標	生物学の基礎的能力をスキルとして身につけることができる。 iPS 細胞、ヒトゲノム、遺伝子組み換え、ゲノム編集など、日常の生物学的話題を理解し説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	特定の教科書は用いない。講義前日までに Moodle で PDF ファイルを配布する。パソコンやモバイルにダウンロードするか印刷して講義に持ってくる。スマホだと画面が小さいかもしれない。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	導入	日常生活で生物学の知識がスキルとして必要であること。生命を定義し、今日の生命がどのように誕生し、進化してきたのか。現在のヒトの在り方と生命の連続性の意味を学ぶ。			
第 2 回	生命の単位	生命とは何か、細胞の大きさはどのくらいか、生命と細胞との関係を知る。顕微鏡の種類、単細胞生物と多細胞生物、細胞の基本的構造、細胞小器官とは何か、生体膜などを学ぶ。			
第 3 回	細胞の構造と機能 (1)	核、ミトコンドリア、小胞体、リボソーム、ゴルジ体などの構造と機能などを学ぶ。			
第 4 回	細胞の構造と機能 (2)	リソソーム、色素体、細胞質基質、細胞骨格などの構造と機能、原核細胞と真核細胞などを学ぶ。			
第 5 回	細胞の構造と機能 (3)	ウィルス、細胞の活動（生物とエネルギー、ATP）について学ぶ。			
第 6 回	生命の連続性 (1)	細胞の活動（代謝）、細胞分裂（体細胞分裂）について学ぶ。			
第 7 回	生命の連続性 (2)	染色体、細胞周期と減数分裂について学ぶ。			
第 8 回	生命の連続性 (3)	配偶子とは何かを知り、ヒトの卵の形成について学ぶ。			
第 9 回	生命の連続性 (4)	ヒトの精子の形成について学ぶ。ヒトでの受精などを学ぶ。			
第10回	生命の連続性 (5) / 中間まとめ 1	簡単な中間まとめテストを行い、内容を解説する。発生と器官形成を学ぶ。幹細胞や iPS 細胞とは何かを理解する。			
第11回	遺伝と変異 (1)	メンデルの遺伝の法則、遺伝に関する基礎的用語を学ぶ。ヒトの遺伝（耳垢）を学ぶ。			
第12回	遺伝と変異 (2)	ヒトの遺伝（血液型など）を学ぶ。遺伝子と染色体、DNA と RNA を学ぶ。			
第13回	遺伝と変異 (3)	セントラルドグマ、タンパク質合成、遺伝子から細胞、個体までの一連の流れ、遺伝的変異などについて学ぶ。			
第14回	遺伝と変異 (4) / 中間まとめ 2	遺伝子工学などについて学ぶ。簡単な中間まとめテストを行い、内容を解説する。			
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	英 語
代 表 講 師	木 下 幸 恵				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	専門医療用語の活用に必要な基礎学力としての英語読解力をテキスト演習を通じて向上させ、論理的思考の向上を目指す。予習を通じて不明点を明らかにした上で授業を通してそこを解明していくこと。				
到 達 目 標	単に授業で習ったことを覚えるのではなく、初見の英語を辞書や参考書等を活用して自分なりの理解につなげられるようになることを目標とする				
成績評価の方法と基準	筆記試験 100%				
テキスト・教材等	『Read on, Think on』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	Introduction Unit 1	テキスト解説 A New Way to Wake Up			
第 2 回	Unit 2	Frame Styles For Glasses			
第 3 回	Unit 3	Pizza Party Etiquette			
第 4 回	Unit 4	Why Do Young People Love Starbucks?			
第 5 回	Unit 5	Gift Certificates in Convenience Stores			
第 6 回	Unit 6	Gift Exchange Party—What Present Would You Buy?			
第 7 回	Unit 7	Is Learning How to Drive a Manual Car Necessary?			
第 8 回	Unit 8	Eating While Walking			
第 9 回	Unit 9	How Do You Keep Your Keys?			
第10回	Unit 10	Tablet-Based Lessons Versus Paper Textbook-Based Lessons			
第11回	Unit 11	Where Do You Want To Go?			
第12回	Unit 12	Is Shaking Hands Finished?			
第13回	Unit 13	Unusual Souvenirs That Foreign Visitors Buy in Japan			
第14回	Unit 14	Young People Rarely Use Email			
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	保健体育
代 表 講 師	大 潮 八 郎				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	運動が生理機能に及ぼす影響を医科学的に学習する。				
到 達 目 標	生涯スポーツを意識し、自己体力の保持増進のできる運動処方作成ができるようになる。				
成績評価の方法と基準	試験（70％） 平常点：目標の到達度（20％） 参加意欲（10％）				
テキスト・教材等	必要に応じて資料配布				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	運動と生理機能・健康 体力の構成 行動体力 防衛体力 精神力				
第 2 回	運動と表現機能（運動器）・コントロール機能（神経系）				
第 3 回	運動と持続機能（呼吸循環器）				
第 4 回	運動とエネルギー源・ATP 供給過程 トレーニングの原理と原則 種類と効果				
第 5 回	実技：バドミントン① 基礎知識 基礎技術練習（ストローク サーブ）				
第 6 回	〃 ② ダブルスゲームルール解説				
第 7 回	〃 ③ ダブルスゲームルール確認				
第 8 回	〃 ④ ダブルスゲームリーグ戦開始				
第 9 回	〃 ⑤ 〃				
第10回	〃 ⑥ 〃				
第11回	〃 ⑦ 〃				
第12回	〃 ⑧ 〃				
第13回	ミニソフトバレーボール①				
第14回	〃 ②				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	教 育 学
代 表 講 師	石 村 秀 登 （所属：熊本県立大学共通教育センター）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	教育は、人間がこの社会の中で存在するために必要不可欠な営みである。教育のはたらきの基礎を学び、教育のさまざまな姿を知る。				
到 達 目 標	社会的・文化的背景をふまえた人間理解を目指し、医療と教育との関わりについて考察することができるようにする。				
成績評価の方法と基準	学期末試験で評価する。				
テキスト・教材等	テキストは使用しない。印刷資料、映像資料などをその都度用意する。				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	オリエンテーション：教育学とは何か				
第 2 回	教育の必要性と可能性①：野性の少年				
第 3 回	教育の必要性と可能性②：遺伝と環境				
第 4 回	教育の目的：何のために教育するのか				
第 5 回	教育の歴史と思想①：わが国の教育の歴史と思想①				
第 6 回	教育の歴史と思想②：わが国の教育の歴史と思想②				
第 7 回	教育の歴史と思想③：西洋の教育の歴史と思想				
第 8 回	教育の現状①：学校教育の制度と内容				
第 9 回	教育の現状②：学校教育の課題				
第10回	教育の現状③：家族と教育				
第11回	医療と教育①：科学の発展と教育				
第12回	医療と教育②：教育学における人間学的見方				
第13回	特別支援教育①：障がいと教育				
第14回	特別支援教育②：特別支援教育の現状と歴史				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	コミュニケーション演習
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	作業療法士として実務経験のある教員や卒業生などが、医療従事者になるために必要なコミュニケーション能力を身につけるため講義を行う。				
授 業 概 要	・これまでとは異なった「主体的な学び方」について学習設計に基づいて講義を行う。 ・医療従事者になるために必要なコミュニケーション能力に対する講義を行う。 ・臨床現場で勤務している卒業生、身体障がい・大腿切断を受傷した当事者へのインタビューを実施する。				
到 達 目 標	・これまでの学び方を見直し、自分に合った効果的・効率的な学習方法を身に付けることができる。 ・医療従事者になるために必要なコミュニケーションスキルを身につけることができる。 ・対象者に寄り添い、共感的・受容的態度で接する。				
成績評価の方法と基準	各項目での課題レポート (70%)、学習ポートフォリオ (20%)、ピア評価 (10%)				
テキスト・教材等	『PT・OT のためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	学習設計：自分の学びと向き合う				川口航平
第 2 回	学習設計：学びの場をつくる				〃
第 3 回	学習設計：学び方を工夫する				〃
第 4 回	学習設計：これからの学びを考える				〃
第 5 回	コミュニケーションとは：医療従事者に必要なコミュニケーションとは－自分を知る－				〃
第 6 回	コミュニケーションとは：医療従事者に必要なコミュニケーションとは－自分を知る－				〃
第 7 回	コミュニケーションの基礎：接遇演習 接遇マナー				矢形あゆみ
第 8 回	コミュニケーションの基礎：相談的面接法の概観				〃
第 9 回	コミュニケーションの応用：相談的面接法の演習 傾聴訓練				〃
第10回	コミュニケーションの応用：コミュニケーションスキルの向上のために				〃
第11回	コミュニケーションの応用：コミュニケーション演習				〃
第12回	コミュニケーションの応用：情報リテラシーについて考える				田河和代
第13回	コミュニケーションの応用：障害受容について考える				〃
第14回	コミュニケーションの応用：切断・脊髄損傷を受傷した方へのインタビューを企画する				〃
第15回	コミュニケーションの応用：切断した方へのインタビュー実施				〃
第16回	コミュニケーションの応用：切断した方へのインタビュー実施				〃
第17回	コミュニケーションの応用：身体障がいを受傷した方へのインタビュー実施				〃
第18回	コミュニケーションの応用：身体障がいを受傷した方へのインタビュー実施				〃
第19回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー企画				矢形あゆみ 川口航平
第20回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー企画				〃
第21回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー準備				〃
第22回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 インタビュー準備				〃
第23回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 1 インタビュー実施				〃
第24回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 1 インタビュー実施				〃
第25回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 2 インタビュー実施				〃
第26回	コミュニケーションの応用：ようこそ先輩 2 インタビュー実施				〃
第27回	ようこそ先輩インタビューに対するまとめ				〃
第28回	ようこそ先輩インタビューに対するまとめ				〃
第29回	ようこそ先輩インタビューに対する成果発表				〃
第30回	コミュニケーション演習全体に対するまとめ・発表				〃

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	科目名	医学倫理・職業倫理学
代 表 講 師	山 野 克 明（所属：熊本保健科学大学）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	医学倫理および職業倫理の基礎について、作業療法士に関係する事例を通して講義と演習を進めていきます。				
到 達 目 標	1. 作業療法士を取り巻く医療倫理の問題ならびに臨床倫理の問題について知る。 2. 倫理的問題を解決するための原則を理解する。 3. 専門職とは何かについて説明できる。				
成績評価の方法と基準	定期試験（100％）				
テキスト・教材等	山野克明編著：職業倫理を考える。理工図書，2023.（その他、必要に応じ授業資料等を配布する）				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	医学倫理・職業倫理学とは何か				
第 2 回	自己決定権について考える				
第 3 回	専門職と患者との人間関係を考える				
第 4 回	医療福祉職の倫理綱領と職業倫理指針（ガイドライン）について考える				
第 5 回	理学療法士の職業倫理				
第 6 回	作業療法士の職業倫理				
第 7 回	医療資源の配分・トリアージの倫理				
第 8 回	障がいと生命の倫理				
第 9 回	生殖技術・遺伝性疾患における倫理				
第10回	認知症・精神医療における倫理				
第11回	アドバンス・ケア・プランニング（人生会議）				
第12回	摂食嚥下障害の倫理				
第13回	脳死・臓器移植と倫理				
第14回	専門職としてどのように振る舞えばよいか考える（専門職の倫理教育）				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学 I
代 表 講 師	浏 野 浩 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	人体の骨・関節・筋・神経の構造と機能について講義をする。				
到 達 目 標	〈前期〉 骨の分類、構造、発生について説明できる。 体軸性骨格、付属性骨格個々の名称や構成、特徴について説明することができる。 骨の連結の構造と機能を説明できる。 人体の各関節の構造と機能及び可動性について説明できる。 〈後期〉 骨格筋の一般的な構造と機能を説明できる。 人体の主要な骨格筋の構造（起始・停止・走行）及び作用を説明できる。 中枢神経と末梢神経の構造と機能を説明することができる。				
成績評価の方法と基準	前期（浏野・島崎）：筆記試験（90%）、小テスト（10%） 後期（島崎）：筆記試験（90%）、小テスト（10%）				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』、『カラースケッチ解剖学』、『PT・OT・ST のための解剖学』、『からだが見える－人体の構造と機能－』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	総論：解剖学の基本と系統解剖学への取組み 基本姿勢、身体区分、身体の面、位置、各部位を示す用語				浏野浩二 島崎一也
第 2 回	骨格系：骨の分類・骨の構造・血管・神経の分布、その他				島崎一也
第 3 回	骨格系：骨の再構築・軟骨の種類・骨軟骨の発				〃
第 4 回	体軸性骨格：頭蓋（顔面頭蓋、脳頭蓋、新生児頭蓋）				〃
第 5 回	体軸性骨格：脊柱（基本構造、頸・胸）				〃
第 6 回	体軸性骨格：脊柱（腰部・仙・尾部）、胸郭の構成と機能				〃
第 7 回	付属性骨格：上肢骨（上肢帯骨、自由上肢、手・手指）				〃
第 8 回	付属性骨格：上肢骨（上肢帯骨、自由上肢、手・手指）				〃
第 9 回	付属性骨格：下肢骨（下肢帯骨、寛骨、骨盤、自由下肢、足）				〃
第10回	付属性骨格：下肢骨（下肢帯骨、寛骨、骨盤、自由下肢、足）				〃
第11回	関節・靭帯：頭蓋、脊柱、肋骨、胸骨				〃
第12回	関節・靭帯：上肢帯、自由上肢、手・手指				〃
第13回	関節・靭帯：下肢帯、自由下肢、足				〃
第14回	上下肢及び体幹の骨格・関節・靭帯のまとめ				〃
第15回	試 験				
第16回	筋系：筋の種類・筋の補助装置・骨格筋の構造・顔の筋・咀嚼筋・舌筋				島崎一也
第17回	筋系：肩甲体・腱板・肩関節の筋				〃
第18回	筋系：肘関節・手首と指・手内在筋				〃
第19回	筋系：臀部・大腿後面・大腿前面の筋・内転筋群				〃
第20回	筋系：下腿の筋・足部の筋				〃
第21回	筋系：頸部の筋・胸郭の筋				〃
第22回	筋系：体幹の筋・上肢の筋・下肢の筋のまとめ				〃
第23回	神経系：神経系の構成・ニューロンの機能的分類・シナプスと神経伝達物質・神経筋接合部・中枢神経系の発生				〃
第24回	神経系：大脳半球・大脳半球における神経回路・神経核・間脳・脳幹・小脳				〃
第25回	神経系：脊髄・上行性伝導路・下行性伝導路・脳室・髄膜・脳脊髄液の循環				〃
第26回	神経系：脳神経・脊髄神経と脊髄神経根・脊髄反射・脊髄神経の分布				〃
第27回	神経系：皮節・感覚受容器・交感神経（１）・（２）、副交感神経				〃
第28回	神経系：腕神経叢と上肢に分布する神経、腰神経叢と下肢の神経				〃
第29回	神経系：視覚系（１）・（２）・（３）、聴覚と前庭系（１）・（２）、味覚と嗅覚				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	解剖学Ⅱ
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	内臓諸器官を中心に、人体の基本的な構造について学ぶ。また、各器官の位置関係やつながりを理解し、人体を全体として捉えるための解剖学の基礎的理解を深める。				
到 達 目 標	1. 内臓諸器官の基本的な構造と位置関係を理解できる。 2. 各器官の構造的特徴を理解し、図や用語として説明できる。 3. 国家試験問題を通して、解剖学の基礎的知識を整理し、理解を深めることができる。				
成績評価の方法と基準	小テスト (65%)、学習ポートフォリオ (35%)				
テキスト・教材等	『入門人体解剖学』、『からだが見えるー人体の構造と機能ー』、『PT・OT 国家試験共通問題でるもん・でたもん [基礎医学]』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	オリエンテーション 器官と組織：上皮組織				川口航平
第 2 回	器官と組織：支持組織				〃
第 3 回	器官と組織：筋組織、神経組織				〃
第 4 回	循環器系：循環器系の全体像、血管の組織構造（動脈、静脈、毛細血管）				〃
第 5 回	循環器系：心臓				〃
第 6 回	循環器系：動脈の経路①				〃
第 7 回	循環器系：動脈の経路②				〃
第 8 回	循環器系：静脈の経路、胎児の循環系				〃
第 9 回	循環器系：リンパ管とリンパ節、脾臓、胸腺				〃
第10回	循環器系：血球の種類と特徴、造血				〃
第11回	消化器系：消化管の組織構造、消化管と消化腺				〃
第12回	消化器系：口腔、咽頭、食道				〃
第13回	消化器系：胃				〃
第14回	消化器系：小腸				〃
第15回	消化器系：大腸				〃
第16回	消化器系：肝臓、胆のう				矢形あゆみ
第17回	消化器系：膵臓				〃
第18回	呼吸器系：鼻腔、副鼻腔喉頭、気管				〃
第19回	呼吸器系：肺、胸膜、縦隔				〃
第20回	泌尿器系：腎臓				〃
第21回	泌尿器系：尿管、膀胱、尿道				〃
第22回	生殖器系：男性生殖器				〃
第23回	生殖器系：女性生殖器				〃
第24回	腹腔：腹膜と腹腔膜				〃
第25回	内分泌系：下垂体、甲状腺、副腎ほか				〃
第26回	感覚器：眼の構造				〃
第27回	感覚器：耳の構造、皮膚の構造				〃
第28回	発生：初期発生				〃
第29回	まとめ：国家試験問題①				〃
第30回	まとめ：国家試験問題②				〃

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学 I
代 表 講 師	浏 野 浩 二 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	前期：30 回 (60 時間)
授 業 概 要	生理学 I では、ヒトが生きていくためには、刻々と変わる外界や体内からの情報を収集し、それらに対応して体内環境を適切に維持している。具体的には血液、循環、呼吸、体液調節、消化、内分泌などの働きについて講義する。				
到 達 目 標	・血液の組成、役割を説明できるようになる。 ・呼吸器の構成と役割、肺におけるガス交換と血液によるガスの運搬及び呼吸調整について説明できるようになる。 ・組織の循環及び血圧調整のメカニズムについて説明できるようになる。 ・腎臓の構造と役割、尿の生成メカニズム、クリアランス及び糸球体濾過量の意味を説明できるようになる。				
成績評価の方法と基準	高木・田河担当分：筆記試験 100% 池田・浏野担当分：小テスト 60%、学習ポートフォリオ 40%				
テキスト・教材等	『Q シリーズ 新生理学』、『PT・OT 国家試験共通問題 できるもん・でたもん [基礎医学]』、『からだが見える一人体の構造と機能』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	体液と血液の組成、アルブミンと膠質浸透圧、血液の酸・塩基平衡				池田裕輔
第 2 回	赤血球の構造、赤血球の分化・成熟、ヘモグロビンの合成				〃
第 3 回	赤血球の寿命とヘモグロビンの分解、止血機序				〃
第 4 回	血小板血栓の形成機序、凝固系と線溶系				〃
第 5 回	血小板の活性化とアラキドン酸代謝、顆粒球および単球の分化・成熟				〃
第 6 回	リンパ球の分化・成熟、抗体と補体				〃
第 7 回	細胞性免疫と液性免疫、血液型				〃
第 8 回	呼吸に関する物理法則、呼吸器の構造、肺気量の区分				浏野浩二
第 9 回	換気運動と仕事、肺胞表面活性物質				〃
第10回	換気血流比と肺循環、肺におけるガス交換、血液による酸素の運搬				〃
第11回	ヘモグロビンの酸素解離曲線、血液による CO ₂ の運搬、呼吸の調節				〃
第12回	血圧とは、血液の分布、循環の調整				〃
第13回	血管の神経支配、血管の収縮・弛緩				〃
第14回	血管の局所性調節、全身の血圧調節				〃
第15回	急速血圧調節、毛細血管・組織間液・リンパ				〃
第16回	冠循環の特徴、腹腔循環と皮膚循環				〃
第17回	妊娠・出生に伴う呼吸・循環の変化				〃
第18回	水・電解質の出納、ネフロン構造と機能				高木勝隆
第19回	糸球体における濾過、糸球体濾過量とクリアランス				〃
第20回	尿細管再吸収率、水の再吸収、電解質その他の再吸収				〃
第21回	尿の緩衝作用、体液量と体液浸透圧の調節				〃
第22回	エリスロポエチン、排尿				〃
第23回	消化と吸収：口腔内消化、胃液分泌の調整、胃液の働き、胃運動の調節				田河和代
第24回	消化と吸収：十二指腸・膵臓・胆嚢の構造、膵液、胆汁、膵液と胆汁の分泌調節				〃
第25回	消化と吸収：栄養素の吸収、結腸、排便、肝臓の働き、肝臓と Hb 代謝産物、黄疸				〃
第26回	基礎代謝、エネルギー代謝、呼吸商、体温				〃
第27回	内分泌：視床下部一下垂体系によるホルモン分泌調節の概要、オキシトシン、成長ホルモン				〃
第28回	内分泌：副腎皮質ホルモン、ストレスとホルモン、副腎髄質ホルモン、甲状腺ホルモン				〃
第29回	内分泌：血糖値の調節、Ca 濃度の調節、女性ホルモンと性周期、男性ホルモン				〃
第30回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	生理学Ⅱ
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	4	学期・回数	後期：30 回（60 時間）
授 業 概 要	ヒトが物事を認識・判断し行動するとき、あるいは、生命維持に関する反射性制御において、身体でどのようなメカニズムが働いているのかを、神経、筋を中心に解説します。				
到 達 目 標	神経系、筋系の発達、老化、病態、疾患の理解には臓器レベル、細胞レベル、分子レベルの仕組みを知ることが不可欠です。受講後、神経系、筋系の基礎メカニズムが説明できるようになり、生体・精神機能の回復や維持、予防のための基礎知識が身に付きます。				
成績評価の方法と基準	確認テスト（20%）、理解度テスト（20%）、レポート（20%）、学習ポートフォリオ（40%）				
テキスト・教材等	『Q シリーズ 新生理学』、『PT・OT 国家試験共通問題 であるもん・でたもん [基礎医学]』、からだが見える一人体の構造と機能ー				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	人体を構成する細胞、細胞小器官およびタンパク質合成について説明できるようになる。				池田裕輔
第 2 回	神経細胞、筋線維の機能および構造について説明できるようになる。				〃
第 3 回	静止膜電位、活動電位の発生機序および特徴について説明できるようになる。				〃
第 4 回	活動電位の興奮伝導と伝導速度、神経線維の種類について説明できるようになる。				〃
第 5 回	筋の構造と分類、収縮機序について説明できるようになる。				〃
第 6 回	筋の収縮様式と発生張力について説明できるようになる。				〃
第 7 回	平滑筋の構造、シナプスの種類、化学シナプスの構造について説明できるようになる。				〃
第 8 回	神経伝達物質と受容体、神経筋接合部における興奮の伝達について説明できるようになる。				〃
第 9 回	末梢神経の切断と再生、シナプス後電位、反復刺激の影響について説明できるようになる。				〃
第10回	α運動ニューロン、γ運動ニューロン、腱反射について説明できるようになる。				〃
第11回	脊髄反射、随意運動の伝導路、誘発筋電図について説明できるようになる。				〃
第12回	末梢神経の区分、自律神経の特徴について説明できるようになる。				〃
第13回	交感神経と副交感神経による機能亢進、抑制機構について説明できるようになる。				〃
第14回	皮膚感覚器及び痛覚のメカニズムについて説明できるようになる。				〃
第15回	体性感覚の伝導路について説明できるようになる。				〃
第16回	聴覚のメカニズムについて説明できる。				栗野浩二
第17回	平衡感覚のメカニズムについて説明できる。				〃
第18回	視覚器の構造について説明できる。				〃
第19回	光の受容過程、網膜における情報処理について説明できる。				〃
第20回	視覚の伝導路について説明できる。				〃
第21回	味覚、嗅覚のメカニズムについて説明できる。				〃
第22回	大脳皮質の機能局在について説明できる。				〃
第23回	大脳基底核の機能局在について説明できる。				〃
第24回	小脳による姿勢と運動制御について説明できる。				〃
第25回	大脳辺縁系の情動、視床下部と本能行動、脳幹の生命維持中枢について説明できる。				〃
第26回	錐体路、錐体外路について説明できる。				〃
第27回	覚醒、睡眠時における脳波について説明できる。				〃
第28回	中枢神経系の伝達物質と受容体、ドーパミン神経と報酬系について説明できる。				〃
第29回	前頭前野の機能について説明できる。				〃
第30回	記憶と学習、血液脳関門、髄液循環に関して説明できる。				〃

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	運動学
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	4	学期・回数	前・後期：30 回（60 時間）
実務経験内容 及び授業内容 との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員が、患者の評価、治療、生活支援等の経験を活かし、身体運動の基礎知識を踏まえ、人体の観察、計測、分布する際の生体力学の基礎知識や運動時の生体の働きについて指導する。				
授 業 概 要	人間を観察、計測、分析する際に必要な生体力学の基礎と生体の構造と生体内・外における運動時の機能について講義および演習を行う。				
到 達 目 標	1. 運動学の概要について説明することができる。 2. 人間を観察・計測・分析する際に必要な生体力学の基礎を説明することができる。 3. 生体の構造と生体内・外における運動時の機能について説明することができる。 4. 伝導路について、中枢神経系の概要とともに説明することができる。				
成績評価の方法と基準	確認テスト（20%）、理解度テスト（20%）、レポート（20%）、学習ポートフォリオ（40%）				
テキスト・教材等	『基礎運動学』、『からだが見える－人体の構造と機能－』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	生体力学の基礎 身体運動と力学、時間と空間、運動の観測、運動学的分析				
第 2 回	生体力学の基礎 運動学的分析、円運動、筋力と重力、モーメント				
第 3 回	運動法則、質量と力の単位、重心の運動、剛体の回転運動				
第 4 回	仕事とエネルギー、身体とてこ				
第 5 回	細胞				
第 6 回	細胞膜の興奮、神経線維の興奮伝導、神経線維の種類				
第 7 回	組織、上皮組織、結合組織、筋組織、神経組織				
第 8 回	骨の構造と機能				
第 9 回	関節の構造と機能				
第10回	腱および靱帯の構造と機能 骨格筋の構造 骨格筋の血管				
第11回	骨格筋の微細構造と筋収縮機序				
第12回	筋線維の種類 神経筋接合部と神経筋伝達 運動単位				
第13回	筋収縮の基礎的性質 筋収縮の様態 筋の働き				
第14回	中枢神経系と末梢神経系				
第15回	姿勢の定義と静止姿勢の力学				
第16回	運動における感覚器の役割				
第17回	呼吸の運動学（換気メカニズム）				
第18回	循環の運動学（心拍・血圧応答）				
第19回	運動時の体温調節				
第20回	腎臓と酸塩基平衡				
第21回	栄養素とエネルギー代謝				
第22回	呼吸循環応答と運動強度				
第23回	姿勢保持の戦略				
第24回	歩行の運動学				
第25回	歩行のエネルギー効率と重心移動				
第26回	反射の統合と粗大運動発達				
第27回	上肢機能と把持動作の発達				
第28回	運動制御の概念				
第29回	運動学習の諸理論と練習法				
第30回	まとめ				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	人体の構造と機能 及び心身の発達	科目名	人間発達学
代 表 講 師	高 嶋 美 和 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	人間発達の諸段階における全般的発達と各ライフステージでの発達課題について学修する。				
到 達 目 標	・受精から出生後の加齢に伴う身体構造や脳神経系機能の発達の概要を理解する。 ・人間発達の諸段階（胎児期～老年期）における運動機能から感覚・認知機能、言語機能、心理・情緒・社会性の発達などを学習し、説明できる。				
成績評価の方法と基準	講義中の講義レポートを含む形成的評価 100%				
テキスト・教材等	人間発達学（15 レクチャーリハビリテーションテキスト）				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	人間発達とは（教科書 p. 1-10） ・受精からヒトの死に至るまでの発達の過程や特性を理解する。 ・人間発達学の歴史と発達理論について理解する。				
第 2 回	身体構造の発達（教科書 p. 11-22） ・人間発達の各段階（胎児期～老年期）における身体構造（体格、姿勢、骨格、筋肉、歯など）やホルモンの発達過程を理解する。				
第 3 回	脳神経系機能の発達と運動発達（教科書 p. 23-32） ・胎児期～老年期までの神経系でみられる発達過程を理解する。 ・運動発達のメカニズムにおける代表的な理論について理解する。				
第 4 回	運動・移動の発達（1）生後 0～3 か月の発達（教科書 p. 33-42） ・生後 0～3 か月の運動発達と出現する原始反射について理解する。 ・上肢機能や摂食機能の発達について理解する。				
第 5 回	運動・移動の発達（2）生後 4～7 か月の発達（教科書 p. 43-52） ・生後 4～7 か月の運動発達を、姿勢反射、姿勢反応との関連を踏まえて理解する。 ・上肢機能や摂食機能の発達について理解する。				
第 6 回	運動・移動の発達（3）生後 8～12 か月の発達（教科書 p. 53-64） ・生後 8～12 か月の運動・移動の発達について理解する。				
第 7 回	運動・移動の発達（4）幼児期の発達（教科書 p. 65-78） ・歩行獲得～幼児期の粗大運動と上肢機能の発達とその関係性を理解する。 ・幼児期～老年期の基礎体力の変化について理解する。				
第 8 回	呼吸・循環・代謝・免疫系の発達（教科書 p. 79-90） ・呼吸器・循環器系の発達に伴う変化を理解する。・基礎代謝の発達に伴う変化とそれに影響する要因を理解する。 ・免疫系の発達について理解する。				
第 9 回	感覚・認知系の発達（1）感覚と感覚情報の発達（教科書 p. 91-102） ・感覚（視覚、聴覚、前庭感覚、固有受容感覚）の構造と発達、役割を理解する。 ・触覚、味覚、嗅覚の概要を理解する。				
第10回	感覚・認知系の発達（2）感覚統合と認知機能の発達（教科書 p. 103-114） ・感覚、知覚、認知の発達と感覚統合について理解する。 ・認知機能と認知症の概要を理解する。				
第11回	心理・情緒・社会性の発達（1）新生児期から乳児期の発達（教科書 p. 115-124） ・新生児期～乳児期の心理・情緒・社会性の発達過程と発達課題について理解する。 ・乳児期の愛着形成の重要性を理解する。				
第12回	心理・情緒・社会性の発達（2）幼児期から老年期の発達（教科書 p. 125-134） ・幼児期～老年期の心理・情緒・社会性の発達過程と発達課題について理解する。				
第13回	言語発達と文字の獲得（教科書 p. 135-144） ・言語発達にかかわる条件と言語発達の段階を理解する。 ・前言語期におけるコミュニケーションの重要性を理解する。 ・読み書き能力の獲得過程を理解する。				
第14回	人間発達学における社会的課題（教科書 p. 145-148） ・子どもと若者を取り巻く社会状況を知り、多様な社会的課題について理解する。 ・多様な社会的課題の定義と現状、対策について理解する。				
第15回	発達評価と発達支援の実際（教科書 p. 159-168） ・発達検査の種類と主な発達検査の特徴を理解する。 ・胎児期～老年期の発達学的課題と発達支援について理解する。				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	精神医学 I
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	精神障害とは何かという基本的な考え方から学び、精神機能の障害や精神症状、診断・評価の基準について理解する。また、統合失調症など代表的な精神疾患を取り上げ、講義や国家試験問題への取り組みを通して、精神医学の基礎的理解を深める。				
到 達 目 標	1. 精神障害および精神医学の基本的な考え方を理解できる。 2. 精神機能の障害や主な精神症状、診断・評価の基礎を理解できる。 3. 代表的な精神疾患について理解し、国家試験問題を通して知識を整理できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (60%)、小テスト (40%)				
テキスト・教材等	『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学』、『こころの健康がみえる』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	精神障害とは・精神障害の分類				川口航平
第 2 回	精神機能の障害・症状				〃
第 3 回	診断と評価				〃
第 4 回	統合失調症				〃
第 5 回	気分症 (気分障害)				〃
第 6 回	不安症・強迫症・ストレス関連症 (神経症性障害・ストレス関連障害など)				〃
第 7 回	摂食症・睡眠・覚醒障害など (生理的要因に関連する行動症候群)				〃
第 8 回	パーソナリティ症 (パーソナリティ障害)				矢形あゆみ
第 9 回	物質使用症 (精神作用物質使用による精神・行動の障害)				〃
第10回	身体疾患に起因する精神症状 (症状性精神障害)				〃
第11回	脳器質性疾患に関連する精神症状・認知症 (脳器質性精神障害、認知症)				〃
第12回	神経発達症 (発達障害)				〃
第13回	てんかん				〃
第14回	精神科治療・リハビリテーション				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	科目名	臨床心理学
代 表 講 師	川 口 航 平 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
授 業 概 要	本講義では、臨床心理学の歴史的発展と主要理論を体系的に理解し、「心理療法」および「心理アセスメント」の基本的な考え方を学ぶことで、自己理解と他者理解の基盤を形成するとともに、理学療法士・作業療法士国家試験で問われる臨床心理学領域の内容に対応できる力を身につけることを目標とする。				
到 達 目 標	- 臨床心理学の歴史的発展を体系的に理解する。 - 臨床心理学の主要理論と心理療法の特徴・適用場面を理解し、国家試験問題で選択できるレベルにする。 - 代表的な心理検査を実際に体験し、結果の解釈と結びつけて考察できるようになる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験 (70%)、レポート (30%)				
テキスト・教材等	『リハベーシック 心理学・臨床心理学』、『こころの健康がみえる』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	オリエンテーション 臨床心理学とは：臨床心理学の定義・歴史・実践領域				
第 2 回	心の問題：現代社会における心の問題の特徴				
第 3 回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ① 心の構造・防衛機制				
第 4 回	臨床心理学の主要理論：精神分析理論 ② 精神分析的な心理療法				
第 5 回	臨床心理学の主要理論：行動主義心理学 ① 行動主義の考え方・行動療法				
第 6 回	臨床心理学の主要理論：行動主義心理学 ② 認知行動療法				
第 7 回	臨床心理学の主要理論：人間性心理学 欲求階層説 (マズロー)・来談者中心療法 (ロジャーズ)				
第 8 回	その他の理論・心理療法：ゲシュタルト心理学、家族療法、森田療法 他				
第 9 回	まとめ：国家試験問題				
第10回	援助職としての支持的なコミュニケーション				
第11回	援助職としての支持的なコミュニケーション 応答練習				
第12回	心理アセスメント：アセスメントの目的と方法・心理検査の種類				
第13回	心理アセスメント：心理検査による自己理解：質問紙法・投影法 (実習)				
第14回	心理アセスメント：心理検査による自己理解：結果のまとめと考察				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	科目名	リハビリテーション医学概論
代 表 講 師	坂 崎 浩 一（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	2	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
授 業 概 要	リハビリテーションの概要について理解を深めると共に、リハビリテーション医学にかかわる理学療法士として必要な基礎知識、評価の考え方、代表的疾患・外傷の理解とそれぞれのリハビリテーションのあり方について学ぶ。毎回の授業は、予習としての事前課題、講義、復習としての課題確認シートとノート提出をもって進める。				
到 達 目 標	・リハビリテーション医学の理念と障害について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学に関する基礎学について理解し、説明することができる。 ・リハビリテーション医学における評価とその対象となる疾患の概要について、理解し説明することができる。				
成績評価の方法と基準	中間試験（40％）、定期試験（50％）、ノート提出状況（10 割）				
テキスト・教材等	標準リハビリテーション医学（医学書院）、基礎運動学（医歯薬出版）、配布資料、事前学習課題				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	・リハビリテーションの理念と分類 - リハビリテーション理念について理解する。 - 医学的リハビリテーションについて理解する。				
第 2 回	・リハビリテーションの分類 - 教育的、職業的、社会的リハビリテーションについて理解する。 ・障害のとらえ方 - 国際障害分類（ICIDH）と国際生活機能分類（ICF）について理解する。				
第 3 回	・障害の受容 - 障害の受容プロセスについて理解する。 ・リハビリテーションにおける基礎学（運動生理学領域） - 筋繊維の Type、筋収縮とエネルギー源について理解する。				
第 4 回	・リハビリテーションにおける基礎学（運動学領域） - 筋収縮の様式（等尺性収縮・等張性収縮）、四肢の運動、姿勢について理解し表現できるようになる。				
第 5 回	・中間試験① ・リハビリテーションにおける障害学（運動器障害） 筋、骨、関節の損傷、ロコモティブシンドローム、サルコペニアについて理解する。				
第 6 回	・リハビリテーションにおける障害学（神経系障害） - 中枢神経系の働きと中枢神経障害の概要について理解する。				
第 7 回	・リハビリテーションにおける障害学（神経系障害） - 末梢神経系の働きと末梢神経障害の概要について理解する。				
第 8 回	・リハビリテーションにおける障害学（廃用症候群） - 廃用症候群の基礎（症状等）について理解する。				
第 9 回	・中間試験② ・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - 関節可動域測定（ゴニオメーターの使い方・基本軸、移動軸）について理解する。				
第10回	・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - 上下肢の徒手筋力検査の概要についてについて理解する。				
第11回	・リハビリテーションにおける基本的評価の理解 - バランス検査、感覚検査、認知症の検査の概要を理解する。				
第12回	・評価における基本事項の理解 - 意識障害（JCS）、ADL 評価の概要について理解する。				
第13回	・中間試験③ ・代表的疾患の理解 - 脳血管障害の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。				
第14回	・代表的疾患の理解 - 脊髄損傷の病態像とリハビリテーションの流れについて理解する。				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	作業療法概論
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員等が、作業療法の概論と作業療法士に関する業務や倫理について講義する。				
授 業 概 要	本邦における作業療法について、歴史、法律、制度、診療報酬、職能団体等の様々な視点から講義する。				
到 達 目 標	・作業療法士に求められる基本的な資質と適性について理解することができる。 ・作業療法実践の枠組みを理解し、作業療法士の業務と役割、およびチーム医療の必要性について説明できる。 ・生活機能と障害について理解を深め説明できる。 ・作業療法士としての倫理やマナーについて説明できる。 ・作業療法を取り巻く現状（診療報酬、介護報酬含む）と課題について説明できる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（90%）、レポート（10%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第 1 巻 作業療法概論』、『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『図解 作業療法技術ガイド第 4 版』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	作業療法士に求められる資質と適性 専門職になるために学習する知識と技術体系 チームアプローチ				
第 2 回	作業療法士の活動の場 作業療法の実践の紹介 作業の捉え方と評価・支援技術				
第 3 回	作業療法の定義 作業の定義 作業の治療的意味 作業の分類、生活と作業 作業療法ガイドライン				
第 4 回	リハビリテーション医療の歴史 日本の作業療法の歴史 世界の作業療法の歴史、作業療法の現状と課題				
第 5 回	生活機能と障害（ICF）の理解				
第 6 回	作業療法の原理 作業療法の理論				
第 7 回	領域別・病期別・圏域別作業療法の実際				
第 8 回	作業療法の流れ 作業療法の開始 作業療法の評価計画立案と評価実施 作業療法計画の立案と実施 終了と成果 フォローアップ				
第 9 回	作業療法ガイドライン、評価、課題抽出、計画立案、実施、再評価				
第10回	職業人として一般常識とマナー 倫理綱領 倫理指針				
第11回	理学療法士および作業療法士法 医療保険（診療報酬）介護保険（介護報酬）自立支援制度 部門の開設				
第12回	作業療法士の組織 日本作業療法士協会の歩み・発展と活動、重要課題など				
第13回	チーム医療啓発講義（PT / CE / PO / EMTの内、2 学科による講義）				
第14回	チーム医療啓発講義（PT / CE / PO / EMTの内、2 学科による講義）				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	基礎作業療法学	科目名	臨床見学演習
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な能力を身に付けるため、病院・施設等の臨床現場において、実習指導者の指導の下、見学を通して作業療法についての理解を深め、今後の学習や自己の課題について把握できるよう指導する。				
授 業 概 要	身体障害領域を中心に作業療法場面の見学を通して、身体障害領域における作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図り、作業療法士になる自己の課題、今後取り組むべき事項を1年次に把握し、学習に対する動機づけを高める。				
到 達 目 標	到達目標は以下の通りである。 1. 見学施設の役割と機能について説明できる。 2. 作業療法士の治療・指導・援助について説明できる。 3. 専門職としての作業療法士の適性とはどのようなものかを見学を通して説明できる。				
成績評価の方法と基準	レポート（100%）				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	〈期 間〉 2026 年 8 月中旬 5 日間（8/17 ～ 8/21 を予定） 〈内 容〉 学内講義・演習と臨床講義・見学を組み合わせる実施することにより、作業療法士になる自己の課題、今後取り組むべき事項を1年次に把握し、学習に対する動機づけを高める。 施設見学は3日間実施する。 最終日には、学内で反省会、臨床見学実施報告会、課題の提出を行う。 ・1 日目 学内講義・オリエンテーション： 作業療法の臨床、実習生としての心構え、守秘義務、見学時の視点等について ・2 日目～4 日目 臨床講義： 施設における作業療法の役割、位置づけ 施設の作業療法の概要と特徴 学生時代に学んでおくべきこと 見学時の注意事項 等 ・5 日目 学内講義： まとめと反省（臨床見学実施報告会、課題提出）				
第2回					
第3回					
第4回					
第5回					
第6回					
第7回					
第8回					
第9回					
第10回					
第11回					
第12回					
第13回					
第14回					
第15回					

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法評価学	科目名	作業療法評価学 I
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、作業療法士に必要な評価能力を身につけるため、検査意義や一連の流れを踏まえ身体機能における基本的な知識と検査技術について解説および実技指導する。				
授 業 概 要	学生自らが作業療法評価スキルを身に付けるために、グループを単位として主体的学習を行う方法である skill lab（スキルラボ）・PSI（個別化教授システム）学習方法を用い、資格教材を中心に自己学習を進める。				
到 達 目 標	・作業療法評価における検査測定の意義を述べることができる。 ・形態測定に必要な知識、技術を習得する。 ・関節可動域測定の方法を理解し、技術を習得する。				
成績評価の方法と基準	事前小テスト（20％）、事後小テスト（20％）、レポート（患者家族への説明）（20％）、実技習熟度確認テスト（40％）				
テキスト・教材等	《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、『臨床ROM 第2版—測定からエクササイズまで【Web 動画付き】』、『PT・OT のための測定評価 DVD Series） 2 形態測定・感覚検査・反射検査』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	評価とは、検査測定の意義および目的、実技習得における skill lab（スキルラボ）・PSI（個別化教授システム）について				browse浩二 池田裕輔
第2回	形態測定（上肢）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第3回	形態測定（下肢）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第4回	形態測定（周径）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第5回	形態測定（総合的学習）				〃
第6回	関節可動域測定（デモンストレーション及び事前学習）				〃
第7回	関節可動域測定（肩関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第8回	関節可動域測定（肘関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第9回	関節可動域測定（手関節・手指）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第10回	関節可動域測定：（上肢の総合的学習）				〃
第11回	関節可動域測定（股関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第12回	関節可動域測定（膝関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第13回	関節可動域測定（足関節）：事前小テスト・レポート（患者家族への説明）・実技習熟度確認テスト・事後小テスト				〃
第14回	関節可動域測定：（下肢の総合的学習）				〃
第15回	関節可動域測定：（頸部・体幹・その他の検査法）				〃

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学 I
代 表 講 師	田 河 和 代 (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法経験のある教員が、神経難病領域における基本的な障害像・評価・作業療法アプローチを主に講義する。				
授 業 概 要	神経難病領域における基本的な障害像・評価・作業療法アプローチを講義する。 各疾患の確認テストを行い、その後説明と解釈を加えることで理解を深める。				
到 達 目 標	神経難病疾患（筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギランバレー症候群、Parkinson 病）の障害像を理解する。 各疾患に対する評価・作業療法アプローチについて説明できる。				
成績評価の方法と基準	各疾患の確認テスト (40%)、筆記試験 (60%)				
テキスト・教材等	『作業療法全書第4巻 作業療法学1 身体障害』、『図解 作業療法技術ガイド』 『病気が見える〈vol. 7〉脳・神経』				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第1回	神経難病の基礎知識				田河和代
第2回	神経難病の基礎知識				〃
第3回	筋萎縮性側索硬化症の疾患概要と障害像				島崎一也
第4回	筋萎縮性側索硬化症の評価と作業療法アプローチ				〃
第5回	筋萎縮性側索硬化症の作業療法アプローチ 筋萎縮性側索硬化症確認テスト				〃
第6回	多発性硬化症の疾患概要と障害像				田河和代
第7回	多発性硬化症の評価と作業療法アプローチ				〃
第8回	多発性硬化症の作業療法アプローチ 多発性硬化症確認テスト				〃
第9回	ギランバレー症候群の疾患概要と障害像				島崎一也
第10回	ギランバレー症候群の評価と作業療法アプローチ				〃
第11回	ギランバレー症候群の作業療法アプローチ ギランバレー症候群確認テスト				〃
第12回	Parkinson 病の疾患概要と障害像				田河和代
第13回	Parkinson 病の評価と作業療法アプローチ				〃
第14回	Parkinson 病の作業療法アプローチ Parkinson 病確認テスト				〃
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅱ
代 表 講 師	高 木 勝 隆（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として病院に勤務していた教員が、対象者の評価、治療、日常生活活動指導等の経験を活かし、主として整形外科疾患に対する作業療法に関する基本的知識について講義する。				
授 業 概 要	運動器とは、身体活動を司る神経・筋腱・骨格・関節とそれを覆う皮膚、栄養に係る血管等を総称したものである。作業療法の対象となる疾患のうち、主として整形外科関連の対象に対して、疾患の基礎知識と作業療法評価、治療を講義する。				
到 達 目 標	・手指の機能解剖を説明することができる。 ・関節リウマチの作業療法評価及び治療、指導、援助を説明することができる。 ・関節リウマチの手指変形発生機序を説明することができる。				
成績評価の方法と基準	筆記試験（85%）、小テスト（15%）				
テキスト・教材等	『作業療法学全書 第4 巻 作業治療学1 身体障害』、『病気が見える＜ vol. 11 ＞運動器・整形外科』、『基礎運動学』、『作業療法技術ガイド』、『《標準作業療法学 専門分野》作業療法評価学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第1回	手指の機能解剖：拇指の構造と運動に作用する筋と関節運動、腱と腱鞘				
第2回	手指の機能解剖：手指の伸展機構				
第3回	手指の機能解剖：手指の伸展機構				
第4回	関節リウマチ疾患の基礎知識				
第5回	関節リウマチの作業療法：関節リウマチ疾患の基礎知識				
第6回	関節リウマチの作業療法：OT 評価（各評価項目における留意事項）				
第7回	関節リウマチの作業療法：OT 評価（各評価項目における留意事項）				
第8回	関節リウマチの作業療法：OT 評価（各評価項目における留意事項）				
第9回	関節リウマチの作業療法：OT 評価（各評価項目における留意事項）				
第10回	関節リウマチの作業療法：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療・指導・援助）、関節保護法				
第11回	関節リウマチの作業療法：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療・指導・援助）、関節保護法				
第12回	関節リウマチの作業療法：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療・指導・援助）、関節保護法				
第13回	関節リウマチの作業療法：OT 治療（急性期、亜急性期、慢性期に応じた OT 治療・指導・援助）、関節保護法				
第14回	関節リウマチ手指変形の発生機序				
第15回	試 験				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	作業療法治療学Ⅲ
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講 義	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	精神障害領域における作業療法に携わった経験を持つ教員が、精神医療・歴史・精神の障害について説明し、精神障害者に対する作業療法を提供するための応用的知識を講義する。				
授 業 概 要	精神障害に関する知識や対象理解、作業療法実践について資料や映像を用いて進める。				
到 達 目 標	1. 精神医療の流れ・歴史について説明できる。 2. 精神の障害について、具体的に述べるができる。 3. 精神障害者に対する治療（自己・集団・構造・作業）について調べ、説明することができる。				
成績評価の方法と基準	ポートフォリオ（50%）、小テスト（50%）				
テキスト・教材等	『精神障害と作業療法』、『ひとと作業・作業活動』、『標準理学療法学・作業療法学 精神医学』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	オリエンテーション 精神障害・精神障害者について				
第 2 回	精神障害作業療法の基礎 精神医療の流れを理解する				
第 3 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神疾患処遇の歴史と作業療法の成り立ちを理解する				
第 4 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 小テスト①、精神の病いとは何か説明することができる、リカバリーの概念から精神障害を捉える				
第 5 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神障害の特性について・脆弱性について理解する・ICF の視点から考える				
第 6 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 回復過程とその状態に応じた作業療法を理解する				
第 7 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 小テスト②、精神認知機能の支障 7つのキーワードを列挙することができる				
第 8 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 精神認知機能の支障 7つのキーワードを説明することができる				
第 9 回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 作業療法の治療構造を理解する				
第10回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 小テスト③、作業・作業活動の要素を理解する				
第11回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 作業・作業活動のもちい方を理解する				
第12回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 自己の治療的利用について理解する				
第13回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 小テスト④、療法集団の治療因子を説明することができる				
第14回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 面接について理解する				
第15回	精神障害作業療法の対象理解と実践方法 小テスト⑤、観察について理解する				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	日常生活活動学
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院）				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士業務に携わった経験を持つ教員が、日常生活活動の概念・評価・援助方法について指導する。				
授 業 概 要	人間の個人、家庭、社会へと広がる生活行為と作業療法を学び、人々が心身機能・構造の障害を改善・維持しながら生活行為を営むための概念及び基礎知識と評価を含む実践を講義します。				
到 達 目 標	1. 日常生活活動（ADL）の概念および範囲を理解することができる。 2. 日常生活活動（ADL）評価の目的・視点および方法を理解することができる。 3. 日常生活活動（ADL）における指導・援助について理解することができる。 4. 作業療法の対象者における自助具・福祉用具の位置づけを理解することができる。				
成績評価の方法と基準	事前小テスト（20%）、事後小テスト（20%）、レポート（20%）、学習ポートフォリオ（40%）				
テキスト・教材等	『ゴールドマスターテキスト 日常生活活動学』、『脳卒中の機能評価 S I A S と F I M』、『新・イラストによる安全な動作介助の手びき』				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	（概論）ADL の概念および範囲、ADL の成り立ちと作業療法、ADL に対する作業療法の理念と役割				
第 2 回	（ADL の評価法）行為の工程分析および動作分析の重要性、評価の視点、判定レベル				
第 3 回	self care（食事）（整容）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 4 回	self care（排泄）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 5 回	self care（更衣）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 6 回	self care（入浴）動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 7 回	起居・移乗・移動 動作及び活動の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 8 回	コミュニケーション・社会的認知の特徴、動作及び活動工程とその評価				
第 9 回	脳血管障害のADL（食事、整容、清拭）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第10回	脳血管障害のADL（更衣、トイレ動作）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第11回	脳血管障害のADL（排尿管理、排便管理）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第12回	脳血管障害のADL（移乗、移動）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第13回	脳血管障害のADL（コミュニケーション）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第14回	脳血管障害のADL（社会的認知）評価（F I M）の視点及び指導・援助のポイント				
第15回	まとめ				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	作業療法治療学	科目名	ファシリテーション演習
代 表 講 師	矢 形 あゆみ (所属：熊本総合医療リハビリテーション学院)				
授 業 方 法	講義・演習	単位数	1	学期・回数	後期：15 回 (30 時間)
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士として実務経験のある教員が、作業療法に必要な自己の治療的利用や他者との相互作用について講義・演習を行う。				
授 業 概 要	作業療法は「ひと」を対象としている。他者と関わる職業では、自分がどんな自我で色づけされているのか知る必要があるため、ポートフォリオ作成や発表、構成的な集中的グループ体験学習を通して、自分自身を振り返り、見つめる。				
到 達 目 標	1. 治療道具としての自己を利用するために、自己を見つめ、再発見することができる。 2. 治療として集団を利用するために、集団の中で自己表現を体験し、他者と出会い、相互関係について考えることができる。				
成績評価の方法と基準	学習ポートフォリオ (40%)、パーソナルポートフォリオ (40%)、レポート (20%)				
テキスト・教材等	配布資料				
回 数	授 業 内 容				
第 1 回	オリエンテーション 自己を見つめるとは何か・ポートフォリオとは何か				
第 2 回	自己を見つめることについて考える				
第 3 回	パーソナルポートフォリオの構成を考え、作成する				
第 4 回	パーソナルポートフォリオの構成を考え、作成する				
第 5 回	パーソナルポートフォリオの構成を考え、作成する				
第 6 回	パーソナルポートフォリオをグループで発表し、自己を表現する				
第 7 回	集中的グループ体験学習準備 (各種、心理検査の実施) 実施要項に基づき、学習の目的を理解する				
第 8 回	集中的グループ体験学習 心を開く・他者を認める、リラクゼーション・アサーション				
第 9 回	集中的グループ体験学習 コミュニケーション				
第10回	集中的グループ体験学習 コミュニケーション				
第11回	集中的グループ体験学習 意見の違いを乗り越えてグループで課題解決				
第12回	集中的グループ体験学習 身体を動かす				
第13回	集中的グループ体験学習 グループで表現する				
第14回	集中的グループ体験学習 グループで表現する				
第15回	集中的グループ体験学習 好感の伝達・好感感情のフィードバック				

学 科	作業療法学 1 年次	教育 内容	地域作業療法学	科目名	地域作業療法学技術論
代 表 講 師	田 河 和 代（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 非常勤講師				
授 業 方 法	講義・実技	単位数	1	学期・回数	前期：15 回（30 時間）
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に携わった経験を持つ教員が、地域作業療法について講義する。 地域の医療・福祉・介護・行政などにおける作業療法士の役割について講義する。				
授 業 概 要	・地域作業療法学に対する講義と実技を行う。 ・e スポーツの講義では、専任講師と非常勤講師による講義と実践を行う。				
到 達 目 標	・地域作業療法に必要な制度及び連携について説明できる。 ・地域社会における作業療法士の役割を説明できる。 ・e スポーツを通して、障がい者や高齢者が地域で生きがいを持って生活をおくれる社会の構築を考 えることができる				
成績評価の方法と基準	形成的評価を用いた課題シート評価（60%）、課題レポート（30%） ポートフォリオ（10%）				
テキスト・教材等	『作業療法学講座 地域作業療法学』、配布資料				
回 数	授 業 内 容				担当講師
第 1 回	作業療法士という仕事：作業療法士の魅力発見、活躍の場				田河和代
第 2 回	地域で生活するということ：自分の住んでいる地域の魅力発見				〃
第 3 回	自分のライフスタイルを考えてみよう				〃
第 4 回	保育園児が遊べる遊具を作ろう				〃
第 5 回	「老い」を考えてみよう：健康的に老後を過ごすには				〃
第 6 回	介護予防の地域づくり：レクリエーションを考えてみよう				〃
第 7 回	障がいをもって生活するということ				〃
第 8 回	障がいをもって生活するということ：生活便利グッズを作ってみよう				〃
第 9 回	ボランティアに参加してみよう				〃
第10回	地域に根差した e スポーツって何？（e スポーツの概要、活動内容紹介など）				園田大輔 田河和代
第11回	地域に根差した e スポーツって何？（福祉用具の説明・紹介など）				〃
第12回	e スポーツ福祉用具を体験してみよう！				〃
第13回	障がい者プレイヤーとの交流				〃
第14回	e スポーツの実践（高齢者施設の体験）				田河和代
第15回	e スポーツの実践（高齢者施設の体験）				〃

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	見学実習Ⅰ（身体機能系）
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 臨床実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：40 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な視点・能力を身に付けるために、病院・施設の臨床現場において、実習指導者の指導の下、対象者および作業療法評価・治療の見学、情報の整理を行う。				
授 業 概 要	作業療法場面の見学を通して、作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、担当事例の検討を通して、作業療法対象者を生活者として全体像をとらえる視点について学ぶ。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実に図る。				
到 達 目 標	作業療法場面における作業療法の対象疾患・治療・指導・援助の見学を通して、以下のことができるようになる。 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 記録・報告をすることができる。				
成績評価の方法と基準	作業療法参加型臨床実習チェックリスト、臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価、実習ポートフォリオ、デイリーノート、出席簿、学院へのフィードバック、臨床実習振り返りシート、臨床実習ガイド、実習前セミナーの出席状況・提出物、および実習終了後の確認試験をもって総合的に判断する。（100%）				
テキスト・教材等	特になし				
回 数	授 業 内 容				
1 週間	学外実習後のスケジュールに従った実習 〈実習期間〉 2027 年 2 月 15 日（月）～2 月 20 日（土）または 2027 年 2 月 22 日（月）～2 月 27 日（土） 〈実習内容〉 ・オリエンテーション：施設概要説明、施設内見学及び挨拶、OT 部門見学（含管理面） ・臨床見学： 1）検査器具、訓練器具の名称およびその使用法 2）OT スタッフの評価やプログラムへの同席 3）他部門の見学（PT 部門、ST 部門、CP 部門、看護部門の業務の流れと役割など）、病棟回診・リハ回診への参加 ・まとめと反省：フィードバック、臨床教育者と学生との意見交換、施設各部門への挨拶				

学 科	作業療法学科 1 年次	教育 内容	臨床実習	科目名	見学実習Ⅱ（精神機能系）
代 表 講 師	池 田 裕 輔（所属：熊本総合医療リハビリテーション学院） 臨床実習指導者				
授 業 方 法	実 習	単位数	1	学期・回数	後期：40 時間
実務経験内容及び授業内容との関連性	作業療法士に必要な視点・能力を身に付けるために、病院・施設の臨床現場において、実習指導者の指導の下、対象者および作業療法評価・治療の見学、情報の整理を行う。				
授 業 概 要	作業療法場面の見学を通して、作業療法の対象疾患や治療・指導・援助の内容について理解を深める。また、担当事例の検討を通して、作業療法対象者を生活者として全体像をとらえる視点について学ぶ。さらに社会人たる基本的な姿勢を意識した態度・行動をとりながら、専門職業人としての自覚の向上・充実を図る。				
到 達 目 標	作業療法場面における作業療法の対象疾患・治療・指導・援助の見学を通して、以下のことができるようになる。 1. 職業人としての望ましい態度や行動をとることができる。 2. 記録・報告をすることができる。				
成績評価の方法と基準	作業療法参加型臨床実習チェックリスト、臨床教育者（CE）による学生の実習経験状況評価、実習ポートフォリオ、デイリーノート、出席簿、学院へのフィードバック、臨床実習振り返りシート、臨床実習ガイド、実習前セミナーの出席状況・提出物、および実習終了後の確認試験をもって総合的に判断する。（100％）				
テキスト・教材等	特になし				
回 数	授 業 内 容				
1 週間	学外実習後のスケジュールに従った実習 〈実習期間〉 2027 年 2 月 15 日（月）～2 月 20 日（土）または 2027 年 2 月 22 日（月）～2 月 27 日（土） 〈実習内容〉 ・オリエンテーション：施設概要説明、施設内見学及び挨拶、OT 部門見学（含管理面） ・臨床見学： 1) 検査器具、訓練器具の名称およびその使用法 2) OT スタッフの評価やプログラムへの同席 3) 他部門の見学（PT 部門、ST 部門、CP 部門、看護部門の業務の流れと役割など）、病棟回診・リハ回診への参加 ・まとめと反省：フィードバック、臨床教育者と学生との意見交換、施設各部門への挨拶				